

令和5年度  
国府中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

生徒が主体的に学ぶ力につながる学力向上を目指して  
①ICT・タブレットを活用し、基礎基本の定着を図るわかりやすい授業の実践  
②思考力や対話力を磨く発問の工夫  
③主体的・対話的で深く学び合う生徒の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長:齋藤大輔 教頭:板東順子 江東克彦  
教務:中山直之 研修主任:濱田恭子  
推進委員:小西美智 蔭山直子  
松尾 由紀 教科主任:和田由佳 長谷川愛実 東條直人

校長

齋藤 大輔

○次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業にまじめに取り組むことができ、全般的に基礎的・基本的な知識や技能を身につけている生徒が多い。 ●自分の意志で学習に取り組む意欲の低い生徒も見られ、学力の二極化傾向が見られる。習得した知識を定着させるまで粘り強く学習に取り組むまでに至っていない。	・集中して授業に取り組み、基礎的内容の課題の達成ができる。 ・身に付けた知識や技能が、ほかの学習や生活の場面において活用することができる。	・教員間で学習規律の共通理解を図り、学習の見通しや振り返りを意識した授業づくりに努める。 ・生徒が興味をもって学習に取り組むことができるよう発問を工夫する。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。	全国学力状況調査やステップアップテストの結果の分析により、基礎基本の徹底や授業規律の確立を図る。	・学習規律はほぼ全員の教員が達成できたと回答している。 ・発問の工夫はできたが、明確であったかについては十分とはいえない。 ・相互参観授業への参加は、十分参加できなかったと答えた教員が20%いた。	・引き続き授業規律の徹底を行い、見通しや振り返りを意識した授業づくりに努める。 ・問いの立て方、発問の工夫と明確化について向上させていく。 ・相互参観授業への参加者を90%以上にしていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題解決に向けて友達の意見を聞いたり自分の意見を発表したりすることができる。 ●書く・話すなどの自己表現活動に対する苦手意識が強い。思考・判断を要する	・各授業で、「いきいき」とした話し合い活動等を通して、自分の考えや意見を相手にわかるように表現することができる。 ・課題解決に向け最後まで粘り強く取り組み、根拠や理由を明らかにしながら伝え合うこと	・ペア学習やグループ学習を適宜設定し、ホワイトボードやICT・タブレットを効果的に活用した発表や話し合い活動を設ける。 ・学んだ知識を活用できる「ワクワク」するような課題を提示し、その課題解決に向けて筋道を立てて考えを深めたり、話し合ったりする機会を設	全国学力状況調査やステップアップテストの結果の分析により、授業形態の工夫についての共有を図り、実践する。	・タブレットの活用が十分だったと答えた教員は、半数程度であった。 ・学習形態の工夫ができたと回答した教員は85%以上であり、主体的・対話的な授業の工夫ができていたと思われる。	・タブレットの効果的な活用の回答が70%以上になるようにしていく。 ・学習形態を工夫し、主体的・対話的で深い学びになるような授業を実践していくようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○チャイム着席が定着しており、授業に落ち着いて臨むことができる。 ●家庭学習の習慣が未定着の生徒が多い。不得意な教科や課題に対して、自分で計画を立てて克服することに課題があ	・夢や目標を持ち、その実現に向けて主体的に学習に取り組むことができる。 ・自分なりの学習の仕方を習得し、主体的、計画的に家庭学習を充実させることができる。	・見通しをもち授業に臨めるよう、めあてを提示する。 ・効果的な発問で授業中に積極的に発表させる機会を増やす。 ・家庭学習に活かせるようなノート指導の工夫や定期テスト計画表の充実を図る。	全国学力状況調査やステップアップテストの結果分析をして、家庭学習の働きかけやノート指導をさらに進める。	・めあての提示、見通しをもった授業、振り返り等も意識できていたが、十分ではないときもあった。 ・ノートのまとめ方や活用について、90%の教員はできたと回答している。	・めあての提示、見通しをもった授業計画を実践していく。 ・全国学力状況調査やステップアップテスト、定期テスト等から課題を把握し、課題解決に向けた授業実践を計画的に進める。

令和5年度 学力向上ロードマップ



